

あなたの力を
市政のために

非常勤職員（助産師・栄養士・認定調査員）を募集

【助産師】

▽雇用期間 4月1日～9月30日（更新あり）

▽勤務時間 午前8時30分～午後6時のうち実働7時間45分（午前8時30分～午後5時または午前9時30分～午後6時のシフト制）

▽勤務場所 ヒロロ（駅前町）3階ヒロロスクエア

▽業務内容 妊産婦相談、妊産婦・新生児の訪問指導など

▽対象 助産師の資格および普通自動車運転免許を有する人＝1人

【栄養士】

▽雇用期間 4月1日～翌年3月31日（更新あり）

▽勤務時間 午前9時～午後3時45分（実働6時間、週30時間）

▽勤務場所 弘前市保健センター（野田2丁目）

▽業務内容 栄養相談や栄養に関する講話、調理実習など

▽対象 栄養士の資格を有する人＝1人

【認定調査員】

▽雇用期間 4月1日～翌年3月31日（更新あり）

▽勤務時間 午前9時～午後3時45分（実働6時間、週30時間）

▽勤務場所 介護福祉課（調査員室）

▽業務内容 介護保険の要介護認定調査など

▽対象 介護支援専門員の資格および普通自動車運転免許を有し、自己または家族が所有する自動車を調査業務に使用できる人＝1人

～共通事項～

▽申込期限 3月11日（月）

▽休日 土・日曜日、祝日、年末年始

▽選考方法 書類選考および個人面接

▽申し込み方法 市販の履歴書に必要事項を記入し各種資格証（写し）を添えて郵送または持参を（受け付けは平日の午前8時30分～午後5時）。

※募集要項など詳しくは市ホームページを確認するかお問い合わせください。

■問い合わせ・申込先 助産師・栄養士…健康づくり推進課（〒036・8711、野田2丁目7の1、☎37・3750）／認定調査員…介護福祉課（〒036・8551、上白銀町1の1、☎40・7050）

希望する人は
申請を

市営住宅等の入居者を募集

【青葉団地市営住宅（南大町2丁目）】

▽募集戸数 1LDK（高齢者〈60歳以上〉単身世帯専用）＝5戸、2LDK（家族世帯専用）＝2戸

※3LDK（家族世帯専用）および2LDK（車いす専用）は現在満室のため、待機者のみを募集します。

▽住宅使用料（家賃） 1LDK＝月額2万3,100円程度、2LDK＝月額2万6,700円程度、3LDK＝月額3万1,300円程度

※上記の金額は各間取りの最低家賃ですので、世帯の所得金額により異なります。

▽申請期間 3月4日～22日（土・日曜日、祝日を除く）

▽決定方法 公開抽選会を実施し、決定します。同時に待機者の順番を決定し、新たに空室が発生した場合は順番の早い人から部屋をあっせんします。

■問い合わせ・申込先 市営住宅サービスセンター（市役所2階、財産管理課内、☎40・7013）、財産管理課住宅係（☎35・1321）

【弘前駅前北地区都市再生住宅（代官町）】

▽対象戸数 11戸（1LDK＝3戸、2LDK-A＝5戸、2LDK-B＝3戸）

▽住宅使用料（家賃） 1LDK＝月額5万800円～5万8,900円、2LDK-A＝月額6万400円～7万1,300円、2LDK-B＝月額5万9,600円～7万円
※収入により使用料に違いがあります。また、この住宅は、中堅所得者（直近1年間の総収入額から各種所得控除した額の「12分の1」の額が、月額収入15万8,000円を超え48万7,000円以下の者）が対象となります。

▽申請期間 随時

※間取りなど詳しくは市ホームページを確認するかお問い合わせください。

■問い合わせ・申込先 区画整理課（駅前町、ヒロロ3階、☎34・3233）



弘前城石垣修理

第13回～本丸東面石垣の解体工事～



平成29年4月9日に着手した弘前城本丸東面石垣の解体工事は、平成30年10月26日に最後の一石を取り外し、終了しました。最終的な解体石材数は、2,172石です。

工事着手前、解体修理の予定範囲内には2,518石の石材がありました。最終的な解体石材数が少なくなったのは、東面石垣の北側で築城の頃のものと思われる出角（石垣の角部）が確認され、それを残すこととしたほか、石垣の膨らみや石材の傷みが少ないと判断された箇所については、解体せずに残すことにしたためです。弘前城跡は国の史跡に指定されており、本丸に築かれた石垣は、最も古い箇所です。約400年前にまでさかのぼるものです。現地に残っている石垣は、先人によりつくられた貴重な文化財であるため、当市では、できるだけ当時のものを残しながら修理する方法を模索しています。



石垣の解体中には、石垣の裏側から新たな発見もありました。特に、江戸時代の元禄年間（約300年前）に築かれた井戸や排水の跡は、発掘調査の大きな成果の一つです。

井戸跡は直径約6mの円形をしており、東側に長さ約5m（7～8石）、高さ約6m（11石）にわたる石積みをしていました。元禄以前の絵図でもこの地点に井戸が描かれているのに加え、出土した遺物の

状況から、元禄以前につくられた井戸が、元禄の石垣築き足し時に嵩上げされたものと考えられます。井戸枠は、東側の石積み11石目付近の深さで、遺構中央部に二重になって発見されました。木枠は正方形で、外側が一辺1.7mほど、内側が一辺1.2mほどです。外側の木枠と内側の木枠の間には砂が詰められており、井戸水をろ過する働きがあったと考えられます。実際の水のくみ上げは、内側の木枠で行われていたのでしょう。

排水跡は、石垣の中段に設けられた蛇口から、本丸での生活排水等を内濠へ流した施設です。

蛇口の背面には、井戸に通じる暗渠（水路）がつくられていました。暗渠のうち下部は元禄の構造が残り、上部は19世紀（江戸時代後期）以降につくり直されていたことが確認されましたが、下部はスロープ状、上部は階段状となっており、石組の構造にも時期の違いが明かに現れていました。



また、東面の北側では、西側（本丸側）へ延びる石垣の出角も見つかりました。この石垣は、自然石を積み上げた野面積みという積み方でつくられており、築城期の盛土と元禄の盛土の間に挟まれるようにつくられていました。江戸時代前期に積まれた石垣であることは間違いなく、今後調査成果を整理しながら、具体的な構築時期を絞り込んでいきたいと考えています。

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記URLをご覧ください。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎33・8739）